

はじめに

情報メディアセンター長 伊藤 博文

2008年10月より、名古屋情報メディアセンター長を務めさせていただいている伊藤博文です。2004年に愛知大学法科大学院に赴任して以来、名古屋ICT委員を務めさせていただいておりましたが、前センター長の中尾浩先生の任期満了に伴いその後任として選出され、センター長を仰せつかりました。同様に、豊橋校舎では、前豊橋センター長の龍昌治先生の後任として蔣湧先生が選任されました。両名とも初めてのセンター長ですが、ユーザーのご要望に応えられるよう努力してまいりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

1. 情報メディアセンターのこれまでの役割

私と情報メディアセンターとの関わりは23年程前に遡ります。私が本学の大学院生であったころ、名古屋校舎にまだ出来たてであった情報処理センターによく通いました。今でこそ、情報メディアセンターという組織は、名を変え、大学における重要な組織として認知され今日に至っておりますが、当時は、大学教育にICTを導入するという方向性は極めて希薄であり、全学の情報処理という限定された用途のためのセンターという位置づけであったと思います。時代の流れに沿う形で、情報メディアセンターの果たすべき使命も設立当時のものから変化し、幅広く大学運営・教学に関わりを持つこととなりました。

2. 情報メディアセンターのこれからの役割

大学という教育の場における情報リソースへのピア (Pier) として、そしてポータル (Portal) としての役割は増していくと考えております。そこで、インターフェイスの改善とコンテンツの充実を図ることが不可欠でしょう。つまり、大学教育・研究という側面では、教員と学生が情報源に接する場を提供することが必要です。その場の提供とは、利用者にとって利用しやすい環境であり、最新のハードウェアとソフトウェアでなければなりません。コンテンツの充実という方向では、インターネットといったオンライン・コンテンツのみならず、図書館との有機的な連携をはかり、ユーザーの多様なニーズに合った情報を提供し得る環境を構築していくことが求められます。今後も、満足度の高い情報教育・研究環境を提供し続けるように努力していく所存です。

3. 新しい取り組み

またICTを教育に活用するという方向性では、大学教育における新しい教育手法としてのeラーニングを推進する必要があります。本学では2009年度より正式にMoodleを使ったLMS（Learning Management System）教育の展開をLMS運営特別委員会の下で行っております。eラーニングは、大学教育の在り方を根底から改善する可能性を秘めた教育手法であり、積極的に導入して利活用することが求められております。今後ますます、多くの教員と学生に愛用されるようなシステムに育て上げていく必要があります、情報メディアセンターもバックアップしていくこととなっております。

さらに、今の情報メディアセンターが取り組まなければならないものは、2012年に控えた新名古屋校舎（ささしま）移転への対応です。愛知大学の未来を左右する大プロジェクトに、情報メディアセンターも一翼を担っております。「ささしま」での情報処理、情報教育・研究のためのインフラをデザインしていかなければなりません。この点についても、情報メディアセンターに対して、皆様からのご支援、ご協力を賜り、組織の運営に尽力していきたいと考えております。

4. 今後の課題

情報メディアセンターの課題には多くのものがあります。メディアセンターという組織の役割から来る課題としては、凄まじい変革の速度で進化するICTを、大学教育・組織にどのように取り入れていくかという視点が不可欠であり、環境構築から日々の保守管理までとなすべき事は多々あります。また、一方で2012年の「ささしま」移転とも絡み、次期情報システムである第8期システムをどのように構築していくかという将来的な視点も不可欠です。さらには、情報メディアセンターという組織が、図書館といったこれまでの情報集積・閲覧の場との融合を進めて、両者の協調を模索していくことが求められます。課題は山積ですが、一步一步努力していきたいと考えております。

5. COM35号発刊について

今回、愛知大学情報メディアセンター紀要COM35号を無事発刊できたことに対して、編集委員の方々を始め、投稿していただいた執筆者の方々に、お礼を申し上げます。今後も、多くの方の情報発信および収集の場としてCOMをご愛読いただければ幸いです。